

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム

(平成23年度 教育課題研修)

報 告 書

プログラム名	読書指導カスタンダードに基づく読書指導教員研修プログラムの開発
プログラム の特徴	現代社会に対応するために読書指導のできる教員の研修は重要になってきている。読書指導ができる教員の資質の基準を示した「読書指導カスタンダード」に基づいて、現代社会に応じた児童・生徒の学力を保証できる読書指導を行える教員の研修プログラムを開発する。

平成24年3月

新潟大学

新潟市教育委員会

I 開発の目的・方法・組織

1. 開発目的

情報社会・知識基盤社会・国際社会などと言われる今日の社会を生きていくために必要な学力やコミュニケーション力を保証することは、今日の教育に最も重要な課題である。特に読書活動の重要性は、近年の国際学力調査 PISA や全国学力・学習状況調査の結果からも強調されている。また、平成 20 年 3 月に改訂の学習指導要領においては、読書活動はより内容に踏み込んだものとなった。現職教員の多くは、これほど読書活動が重視されていなかった時代に学生生活を行っており、意識としても技術としても読書指導についての十分な能力を持っていない。そこで、本プログラムでは、読書指導力スタンダードにもとづき、読書力を育成するための読書指導研修プログラムを開発することを目的とする。

本プログラムの対象となる新潟市は、平成18年度より教育の方針を明らかにした「教育ビジョン」を制定したが、この中に「学習習慣の定着と読書活動の推進」を位置づけ、子どもの読書活動を推進する計画を立てて努力している。また、新潟市内の小中学校は、学校図書館司書を配置しており、読書活動を行うのに恵まれた環境にある。しかし、司書教諭を含む教員と学校司書がどのように連携していけば豊かな読書活動が展開できるのか全ての教員が理解しているわけではなく、せっかくの学校司書を活用した教育活動が十分にはできていない。このような現状を鑑みても、読書指導のできる教員の研修は重要であり、この教員研修が成功すれば、新潟市の読書指導は飛躍的に改善されるもと考えられる。

2. 開発の方法

(1) 読書指導力スタンダード

海外には、生徒の学習の基準を定めた学習スタンダード(Learning Standard)と同様に、教師の基準とも言うべきプロフェッショナル・スタンダード (Professional Standard) が存在する。足立 (2009) では、国際読書学会(International Reading Association)、の読書指導を教師のためのスタンダード(Standards for Reading Professionals)、全米教職専門基準委員会(National Board for Professional Teaching Standards)のリテラシー：読書一言語技術科スタンダード(Literacy: Reading-Language Arts Standards)、イリノイ州教育委員会(Illinois State Board of Education)の読むことのスタンダードを参考に、我が国の教師向けの読書指導力スタンダードを開発した(足立幸子「読書指導力スタンダードに基づく教員研修プログラムの評価」『新潟大学教育学部紀要』第2巻第1号 人文・社会科学編 1～14頁 2009年10月)。これは、1 授業準備、2 読書指導、3 読書評価、4 読書する子どもたちの指導、5 情報倫理、6 協力と協同作業、7 学校図書館の運営と読書環境の整備の7つの領域からなり、主に知識面と、教師としての指導面・運営面の側面を示す2～4の基準からなっている(表1)。

表1 読書指導力スタンダード

読書指導力スタンダード	
1 授業準備	
1 A	読書指導に適した本を知っている。
1 B	読書指導に用いる本を探したり、教材を開発したりすることができる。
1 C	読書指導のカリキュラムを考えたり、読書指導をカリキュラム上に位置づけたりする

	ことができる。
2 読書指導	
2 A	適切な読書指導の方法を知っている。読み聞かせ、朝の読書、リテラチャー・サークル、読書へのアニメーションなど。
2 B	子どもの発達段階に応じた指導目標を立て、その指導目標に適切な読書指導の方法を選ぶことができる。
3 読書評価	
3 A	読書力を測定する読書評価の仕方を知っている。
3 B	読書評価を授業に組み込むことができる。
3 C	読書評価の結果を次の授業に生かすことができる。
4 読書する子どもたちの指導	
4 A	進んで読書をすることができるように、子どもたちを指導している。
4 B	読書してきたことをまとめることができるように、子どもたちを指導している。
4 C	図鑑や参考図書などを用いて調べることができるように、子どもたちを指導している。
5 情報倫理	
5 A	著作権について十分な知識を持っている。
5 B	著作権を順守した教材づくりができる。
5 C	レポートなどをまとめる際の引用の仕方や出典の書き方などを指導している。
6 協力と協同作業	
6 A	他の教師と本や教材、読書の指導方法などについての情報交換をする。
6 B	公立図書館の協力を得て、読書指導を行う。
6 C	親や地域の人々の協力を得て、読書指導を行う（読み聞かせボランティアなど）。
7 学校図書館の運営と読書環境の整備	
7 A	学校図書館において本や本以外の資料の入手の仕方を知っている。
7 B	本や本以外の資料を適切に学校図書館に配置することができる。
7 C	学校図書館を資料を利用した読書指導を、率先して計画・提案することができる。
7 D	教室に学級文庫を設置し、読書環境の整備につとめている。

この読書指導カスタンダード自体は、平成 19 年度の教員研修モデルカリキュラム開発プログラムでも使用されていたが、平成 23 年度は、このスタンダードをもとに、研修内容を開発することとなった。

(2) 海外における読書指導・教員研修の調査

読書指導カスタンダードを前提として、教員研修プログラムを開発する際に、どのような場で研修内容が学ばれるかを検討する必要がある。そこで、海外における読書指導・教員研修の場として、国際読書学会第 56 回年次大会に出席し、教員研修の場について調査を行った。同大会では、institute という一日の講座、60 分間のワークショップ、75 分の口頭発表、2 時間 30 分に渡るシンポジウムなど様々な形での教員研修が行われていることが分かった。そこで、これらの様々な研修の場を、ワークショップ、講義、実践発表等の様々な形で、本教員研修プログラムに展開させることにした。また、研修を行う側も、大学教員、学校教師、ボランティア、業者など様々な立場の人たちが参加していることが明らかになった。このことを参考にして、本教員研修プログラムでは、新潟大学の

スタッフのみならず、教員、ボランティア、図書館員、学生など様々な人が関わって行うことにした。

(3) 研修内容のメニュー化

前述の読書指導力スタンダードについて、どのような研修の内容を立てることができるか、新潟大学のスタッフで検討した。その結果、次の研修内容を、読書指導力スタンダードの研修メニューとして、各スタンダードの領域に位置づけることになった(表2)。

表2 読書指導ワークショップのメニュー

<u>S 0 読書指導力スタンダード</u>
S 0-1 読書指導力スタンダードの内容
<u>S 1 授業準備</u>
S 1-1 図書及び読書材講義(ジャンル、新しいタイプの本・読書材、理科読)
S 1-2 カリキュラム上の位置づけ(読解と読書、「読書活動の充実」)
<u>S 2 指導方法</u>
S 2-1 読書へのアニメーション
S 2-2 リテラチャー・サークル advanced
S 2-3 比べ読み
S 2-4 交流型読み聞かせ
S 2-5 パートナー読書
<u>S 3 読書評価</u>
S 3-1 学力と行動・態度、テストと質問紙調査
S 3-2 海外の多様な読書評価
S 3-3 アニメーションから読書評価へ、読書評価演習
<u>S 4 子ども指導</u>
S 4-1 読書意欲、モチベーション、エンゲージメント
S 4-2 読書のアウトプット
<u>S 5 情報倫理</u>
S 5-1 著作権…教師の扱い
S 5-2 著作権…ボランティア
S 5-3 著作権…子どもの指導(引用・出典)
<u>S 6 協力と協同</u>
S 6-1 教師の自主的なグループ研修
S 6-2 公立図書館の利用
S 6-3 ボランティアとの協同
<u>S 7 読書環境</u>
S 7-1 学校図書館と学級文庫
S 7-2 学級文庫計画
S 7-3 掲示物・ディスプレイ・子どもに向けての課題

研修のスタイルとしては、ワークショップ、講義、実践発表、図書館見学等の様々な形を取り入れることにした。研修を行い手として、大学教員、幼・小・中教員、ボランティア、図書館員、学

生など様々な人が関わって行うことを考えることにした。

(3) 会場及び日程の決定

以上のことをふまえて、月に1～2回の読書指導ワークショップと、最後に1階の教員研修フォーラムを行うことにした。読書指導ワークショップでは、ワークショップ（演習）、講義、実践発表、見学を含め、そのことが可能な日程を決定した。また、フォーラムでは、成果発表会を兼ねることとした。

3. 開発組織

新潟大学

教育学部

- 足立 幸子（本プログラム開発・実施・総括）
- 堀 竜一（比較読みと比較文学の講義、記録）
- 小久保美子（カリキュラム上の位置づけ担当）

新潟市教育委員会

学校支援課

- 石川 治（教育委員会責任者）
- 齋藤 純一（ワークショップへの参加、国語科との関連についての指導）

新潟市立総合教育センター

- 中村 雅芳（ワークショップへの参加、教員研修の意義の解説）

新潟市立中央図書館

- 持田 和男（中央図書館ツアーの企画・運営、図書館が行う学校支援について解説）
- 小林 恵子（中央図書館ツアーの企画・運営、図書館が行う学校支援についての解説）

上記以外のワークショップ・フォーラム協力者

- 山岸 修（坂井輪東幼稚園園長：教員自己研修グループ「西蒲子どもの本」活動報告）
- 佐藤 清江（きいちごの会：読書指導法（読書へのアニメーション）の演習）
- 原 宏志（院生：修士論文（比較文学研究）の資料提供）
- 樋口紗衣子（学生：卒業研究（学級文庫研究）の発表）
- 塚田 泰彦（筑波大学教授：フォーラムにおける講演、外部評価）
- 田村 祥子（三条市立第四中学校教諭：成果発表代表者）
- 森谷 優子（新発田市立猿橋中学校教諭：成果発表代表者）
- 佐藤 承子（新潟市立木戸小学校教諭：成果発表代表者）

II 開発の実際とその成果

1. 研修開発の実際

(1) ワークショップ及び教員研修フォーラムの開催

当初は、対象とする児童・生徒の年齢から、幼稚園児から小学校4年生までを対象とするコースと、小学校5年生から高校生までを対象とするコースの2コースを設定することを予定していた。しかし、その形では、会場の都合や講師の日程の都合から、1コースあたりの開催日数が少なくなってしまうことが分かり、年齢を区切らない1コースのみの設定とした。

実施した日程は次の通りである。

	日 時	場 所
第1回	9月24日(土) 13:30~16:45	新潟大学教育学部 B棟 106 講義室
第2回	10月29日(土) 13:30~16:45	新潟大学教育学部 B棟 201 講義室
第3回	11月26日(土) 13:30~16:45	新潟大学教育学部 B棟 106 講義室
第4回	12月10日(土) 13:30~16:45	新潟市立中央図書館「ほんぼーと」ビーンズホール
第5回	12月24日(土) 13:30~16:45	新潟大学教育学部 B棟 201 講義室
第6回	1月28日(土) 13:00~17:00	新潟大学教育学部 B棟 106 講義室※

第6回は、教員研修フォーラムとして別の時程で行った。これについて項を別にして、後で述べる。

第1回から第5回までの時程は次の通りである。

13:00	13:30	14:30	15:00	15:15	16:15	16:45	17:00
受付	前半1	前半2	休憩	後半1	後半2	質問	

この時間配分は、平成19年度の時程に比べて、いくつかの改善を重ねている。1つめは、開始時刻を30分間送らせて、午前中に予定がある受講者に参加しやすいようにしたことである。2つめは、質問の時間を終了時間後に位置づけたことである。これにより、質問がある受講者もしくは質問を聞きたい受講者のみが残って質疑応答をすることを保証した。3つめは、休憩をはさんで前半・後半とし、前半と後半をそれぞれ2つの内容（講義または演習）で構成し、これらの2つの内容の時間配分を柔軟にしたことである。これにより、より無駄や無理のない時間設定が可能になった。

(2) 第1回～第5回ワークショップの内容

ワークショップの内容は、読書指導スタンダードにきちんと位置づけることにより、また、それぞれの研修内容を表2のようにメニュー化することにより、講師の都合や時間配分によって、自由に組み合わせることが可能になった。5回のワークショップで、メニューの内容を網羅できるようにした。第1回～第5回のワークショップの内容は次の通りである。内容は項目として表し、それぞれがどのメニューに対応するかを示している。【】は講師もしくは担当者を表す。特に表記がない場合は、新潟大学教育学部足立幸子が担当している。

第1回 9月24日(土) 13:30~16:45 新潟大学教育学部 B棟 106 講義室

- ・読書指導スタンダードと自己紹介
 - 0-1 読書指導力スタンダードの内容
- ・読書へのアニメーション
 - 2-1 読書へのアニメーション
- ・リテラチャー・サークル(第1回) リテラチャー・サークルの行い方
 - 2-2 リテラチャー・サークル advanced

第2回 10月29日(土) 13:30~16:45 新潟大学教育学部 B棟 201 講義室

- ・リテラチャー・サークル(第2回) リテラチャー・サークルに適した本
 - 2-2 リテラチャー・サークル advanced
- ・著作権
 - 5-1 著作権…教師の扱い

- 5-2 著作権…ボランティア
- 5-3 著作権…子どもの指導（引用・出典）
- ・読書へのアニメーション「くまっ、いいにおい」（作戦3 1 どうして？）
 - 2-1 読書へのアニメーション
- ・読書への評価 アメリカの読書評価を紹介、『くまっ、いいにおい』で、確認テストを作成
 - 3-2 海外の多様な読書評価
 - 3-3 アニメーションから読書評価へ、読書評価演習

第3回 11月26日（土）13:30～16:45 新潟大学教育学部B棟106講義室

- ・カリキュラム上の位置づけ（読解と読書、「読書活動の充実」【新潟大学教育学部 小久保美子】
 - 1-2 カリキュラム上の位置づけ（読解と読書、「読書活動の充実」）
- ・リテラチャー・サークル（第3回）
 - 2-2 リテラチャー・サークル advanced
- ・読書へのアニメーション『ビクトルの新聞記者大作戦』（作戦5 いる？ いない？）
 - 2-1 読書へのアニメーション
- ・比較読み1 『ビクトルの新聞記者大作戦』と『とびだせズッコケ事件記者』
- ・比較読み2 『破戒』と『罪と罰』【新潟大学教育学部 堀 竜一、新潟大学大学院教育学研究科 原 宏志】
- ・比較読み3 東京書籍小学校国語教科書から 説明的文章の比較、発展図書紹介
- ・比較読み4 様々な事例 附属長岡小学校上月康弘先生「シリーズもの」大村はま「伝記の比較」
- ・比較読み5 比較の対象となる素材 テーマ、作者、ジャンル、メディア
 - 2-2 比較読み
 - 4-2 読書のアウトプット
- ・図書及び読書材を知る
 - 1-1 図書及び読書材講義（ジャンル、新しいタイプの本・読書材、理科読）

第4回 12月10日（土）13:30～16:45 新潟市立中央図書館「ほんぼーと」3階ビーンズホール

- ・読書へのアニメーション『おじいちゃんの口笛』（作戦30 何てたくさんのものがあるのでしょうか）
 - 【ボランティアグループ きいちごの会】
 - 2-1 読書へのアニメーション
 - 6-3 ボランティアとの協同
- ・「西蒲子どもの本」の会 活動報告 【坂井輪幼稚園 山岸 修】
 - 6-1 教師の自主的なグループ研修
- ・新潟市立中央図書館職員との「話し合い」、中央図書館ツアー
 - 【新潟市中央図書館 持田和男・小林恵子】
 - 6-2 公立図書館の利用
 - 1-1 図書及び読書材講義
- ・交流を生かした読書指導法 パートナー読書（交流型読み聞かせ）
 - 2-5 パートナー読書
 - 2-4 交流型読み聞かせ

第5回 12月24日（土）13:30～16:45 新潟大学教育学部B棟201講義室

- ・読書環境の改善 学級文庫研究 【新潟大学教育学部 4年 樋口紗衣子】
 - 7-1 学校図書館と学級文庫
 - 7-2 学級文庫計画
 - 7-3 掲示物・ディスプレイ・子どもに向けての課題
- ・比較文学講義 【新潟大学教育学部 堀 竜一】
 - 2-3 比べ読み
- ・リテラチャー・サークル（最終回） 役割で読むということについて
 - 2-2 リテラチャー・サークル advanced
- ・これまでのワークショップのフォロー
 - 5-3 著作権…子どもの指導（引用・出典）
 - 2-4 交流型読み聞かせ
 - 3-1 学力と行動・態度、テストと質問紙調査
 - 3-2 海外の多様な読書評価
- ・読書指導ワークショップの振り返りと今後の課題
 - 0-1 読書指導力スタンダードの内容

(3) 第6回 教員研修フォーラムの内容

教員研修フォーラムの日程は次の通りである。

日 時	2012年1月28日（土）13:00～17:00
会 場	新潟大学教育学部 B棟 106 教室
プログラム	<p>1. 開会挨拶 新潟大学教育学部 小久保美子</p> <p>2. 講演「これからの読書教育と教員の力量形成」 筑波大学大学院人間総合科学研究科 塚田 泰彦</p> <p>3. 読書指導研修シンポジウム</p> <p> 基調報告 新潟大学教育学部 足立 幸子</p> <p> 成果発表グループ討議 ワークショップ受講者</p> <p> 成果発表全体発表 三條市立第四中学校 田村 祥子 新発田市立猿橋中学校 森谷 優子 新潟市立木戸小学校 佐藤 承子</p> <p> コメント1 新潟大学教育学部 堀 竜一</p> <p> コメント2 新潟市教員研修センター 中村 雅芳</p> <p> コメント3 新潟市立中央図書館 持田 和男</p> <p> 外部評価としての総括コメント 筑波大学大学院人間総合科学研究科 塚田 泰彦</p> <p>4. 閉会挨拶</p>

2. 研修の成果と課題

(1) 研修の成果

読書指導力スタンダードに基づいた構造的な研修は、長期的な視野に基づいた教員のキャリア形成に有効である。第1回と第5回のワークショップにおいて、読書指導力チェックリストを実施したが、参加した教員は、自分の読書指導力の現状について分析し、目標を確認するというところを行

うことができた。

(2) 課題

今回の研修プログラムは、モデルカリキュラム開発ということもあり、読書指導力スタンダードの全容を構造的に示すということに主眼が行われた。そのために、全部の読書指導力スタンダードの項目を網羅的に扱うことになり、やや内容過多のところがあった。今後は、受講者の実情に合わせて特に重点的に行うスタンダードの項目を選択できるような工夫が必要である。

III 大学・教育委員会連携による研修についての考察

1 連携を推進・維持するための要点

今回新潟大学・新潟市教育委員会連携事業として、平成 23 年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム「読書指導力スタンダードに基づく読書指導教員研修プログラムの開発」に取り組んだ。で読書指導を取り上げた。これは、平成 19 年度、同プログラムで「知識社会を支える読書力育成の読書指導教員研修プログラムの開発」の発展版にあたる。そのため、平成 19 年度の反省点を踏まえて、今回の連携を行った。

まず、平成 19 年度に比べ、開始時刻を遅くしたり、終了時刻を早くしたりして、参加者に参加しやすくし、研修メニュー以外の情報交換の時間を確保したことが挙げられる。

次に、大学と教育委員会の連携として、新潟市教員委員会学校支援課の指導主事及び新潟市立教員研修センターの担当指導主事、新潟市立図書館の司書、新潟市内の小学校で活動する読み聞かせボランティアグループ、新潟市内の自主的な教員研修グループの代表が、参加者または講師として参加したことが挙げられる。

さらに、会場を新潟大学のみならず、新潟市立中央図書館でも行い、新潟市立図書館の教員サポートの取組を受講者である教員がよく理解でき、逆に教員の取組を図書館側が理解するということもできた。それぞれの取組は、19 年度のプログラムを踏まえたものであったが、今回のプログラムで、それぞれの情報交換が一段高いレベルで行われた。

本プログラムの実施を通して得た人脈及び研修内容を通して、新潟市教育委員会主催の教員研修講座が来年度開催されることになっている。

2. 外部評価

平成 20 年 2 月 2 日に行われた教員研修フォーラムの「読書指導シンポジウム」で、筑波大学大学院人間総合科学研究科の塚田泰彦教授による外部評価を受けたが、そのコメントの要点は以下の通りである。

- ・大学は地域との連携を丁寧に行っている。しかし、地域との連携を行う際には、FDなどの状況を見ていく必要がある。
- ・第三者の参加については、教員委員会、図書館、外部の大学教員など、要件を満たしている。
- ・成果発表で教員研修ワークショップに参加した教員の実践についてはよく分かった。しかし、研修項目が多すぎたのではないか。
- ・大学院で修士課程に読書スペシャリスト養成コースの設置するなどの高い目標を掲げた時には、やはり学内の実施体制が問われてくるだろう。

IV その他

[キーワード]

読書力、スタンダード、読書指導、リテラシー、読書力評価、図書館、学校図書館、ワークショップ、絵本、選書

[人数規模]

C. 21～50名

[研修日数(回数)]

C. 4～10日

【問い合わせ先】

国立大学法人 新潟大学

教育学部 足立幸子

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐二の町8050

TEL025-262-7113 E-mail adachi@ed.niigata-u.ac.jp

新潟市教育委員会

学校支援課

〒950-8550 新潟県新潟市中央区学校町通一番町602番地1

TEL025-226-3261